



元気いっぱい！苅っポー



No. 220 令和5年3月8日

夢と希望に向かって
努力する子ども

友達と仲良く
助け合う子ども

約束や決まりを守り
あいさつする子ども



子どもの現象を見立てる

～セカンドオピニオン～

子どもが「ちょっと頭が痛いなあ」と呟いたら、皆さんはどうしますか？「放っておけば治るよ。気合いだ！」というのでしょうか。それとも「少し休めば良くなるよ。様子を見よう。」と言うのでしょうか。

もちろん、こうしたことで症状が改善することもあるでしょうが、事の本質を捉えた助言とは言えません。では「とりあえず、風邪薬でも飲んでみる？」はどうでしょうか？これも同様で、原因がはっきりとしていない状況では適切な対応とは言いがたいですね。

まず、頭が痛くなる原因を探るところから始めますよね。「体はだるい？」「鼻水は出る？」「喉は痛い？」などと聞いて、当てはまるものがあれば風邪かなと疑って病院に行きます。

そのような症状がなければ、「昨夜はきちんと寝られたの？」と尋ねて、寝不足を疑うかもしれません。季節の変わり目ならば花粉症や自律神経系の症状も疑うでしょうし、それもなければ「もしかして、精神的な何かが原因かも…」と考えるかもしれません。

つまり「頭が痛い」といった表面的な現象がどうして起こるのかをしっかりと見立て、それに合った助言をしないと症状を改善することはできません。



これは、学校現場でも同じことが言えると、私は考えます。

「最近落ち着かない」「言葉遣いが荒くなった」「学校に行きたくないと言っている」などの現象が出てきた子どもに対して、「しっかりしなさい」「がんばりなさい」などと言うだけでは、教師の役割として不十分であると言わざるを得ません。

なぜ、こういう現象が出てくるのかを多方面から探って、学級担任として何らかの見立てをして、対応策を講じていかなければなりません。

一方、保護者の方から見た場合、「学級担任は何らかの策を講じてくれているはずだけど、あまり改善されていないのではないか。本当に大丈夫なの。」と学校の指導に不安を感じる場合もあるかと思えます。

医療の世界に「セカンドオピニオン」という考えがあるように、学級担任が指導に不安がある場合、学年主任に相談してみる、教頭先生に相談してみるなどの方法が、学校現場におけるセカンドオピニオンだと私は思っています。学校ではそのような相談があった場合はもう一度子どもの現象を学校の問題として捉え、何が原因なのか、チームで考えるようにしています。

子どもの現象を多面的に見ることができるよう教師は研鑽を積んでいきますが、何年経験を積みれば完璧になるというものではありません。だからこそ、教師もチームを組んで、一人で悩まず、いろいろな人の考えを聞いて、視野を広げていく必要があります。

時には教師だけでうまくいかない場合もあります。その時は保護者の方にも相談、協力をお願いをします。子どもによっては、学校と家庭とでは全く違う一面を見せるという場合もあります。だからこそ、学校と家庭が協力して、子どもたちの心の声に耳を傾け、真意を読み取るべく、努力を重ねなければと思います。